

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400647		
法人名	社会福祉法人 心侑会		
事業所名	グループホームあい		
所在地	函館市昭和3丁目29番47号		
自己評価作成日	令和4年12月27日	評価結果市町村受理日	令和5年7月18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた市内の施設でその人らしい生活が出来るよう支援しております。心豊かで暖かいサービスの提供をモットーに、ご利用者様といつもふれあい、支えあい、笑顔で毎日過ごしております。またご家族様にもご協力頂きながら季節の行事など楽しんでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0191400647-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0191400647-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年2月15日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR五稜郭駅と桔梗駅の中間程の住宅街に位置し、買い物、病院、交通等、生活全般において至便な立地である。職員は、コロナ禍で外出行事が難しい中、介護理念である「心豊かで温かいサービスの提供」を念頭に、一人ひとりの持てる力を大切にし、家事仕事や趣味など、出来る限り今までの生活が継続できるよう努めている。現在も地域交流や外出行事等に制限はあるが、近隣への散策、敷地での外気浴や行事食の充実等、生活全般が楽しみある時となるよう職員間で話し合いを重ね、実践している。また、家族の繋がり支援についても、ホーム便りの他、電話の頻度を上げ、面会方法の充実も職員間で検討しながら、生活状況や受診結果、食の楽しみ等、多様な情報発信に努めている。今後も変わらぬ尽力に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通い易い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は、出来ている職員と出来ていない職員がいる。	事業所理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。管理者を中心に、申し送りや内部研修の場で理解を深め、日々その実践に努めるよう指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症にて当事業所の行事が出来ない状況であったので、日常的な挨拶は交わしている。最近では七夕やクリスマスには近隣の幼稚園へお菓子のプレゼントを届けている。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、近況報告、挨拶を交わすことで地域との関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生などの受け入れも検討したが、コロナ感染症のピーク時期で受け入れが困難でした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症が減少時期をみて開催していました。検討事項で改善出来る事は迅速伝達し対応しています。	現在は書面での開催としているが、通例では家族、町内会代表、行政に参加、協力を得て定例で開催している。会議内容は書面報告し、委員からの意見を聴取し、利用者家族、職員に周知することでサービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや電話でのやり取りをしています。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への参加・協力や運営状況や事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月ユニット会議にて検討し確認行っている。令和4年12月勉強会行っている。	身体拘束・虐待防止委員会を指針の基に開催し、利用者への介護について、現状では適正か否かを検討している。また、会議や申し送り時に職員に周知し、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会設置しており、毎月日々のケアの中で虐待が行われていないか、再確認行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対して、成年後見人制度などを勉強する機会は設けていなかった為、今後設けるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事業所の取り組み、退居時の事を含め説明行っている。契約困難が生じた場合は十分ご家族様と話し合い方針を検討している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時にお伺いしたり、ご家族様が施設に来られた時に、意見等が無いか声掛けています。出された意見は、ユニット会議で検討しケアに活かしています。苦情対応ファイルを廊下に設置し、いつでも誰でも閲覧出来るようにしている。	通例では、主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、運営や日々のケアに反映している。現在はお便りの他、電話、窓越しでの面会等、情報交換の場を設定し、意見を得て、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のユニット会議にて職員の意見や要望を聞いている。またコミュニケーションを図りながら定期的に職員の傾聴も行っている。	主にユニット会議の場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が随時面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職場環境を気に掛けみており、把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修はコロナ感染症の為参加は行っていないが、zoomの対応が可能になってからは参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設交流や連絡は取っているが、外部との施設に関しては、入居者の受け入れ時にしか関係を持っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い生活状況を聞き取りし、ご本人様の不安と要望をお伺いしている。実際に施設の見学してもらい、少しでも不安などを取り除いて頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様とは別に時間を取って頂き、ご本人様のケアに関して苦労している事やサービスを受けるまでの経緯や要望をお伺いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始を急いでいる方は、出来るだけ柔軟な対応を心掛けている。ご本人様の状況によっては法人内の他事業所へ繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴れ合い過ぎず、施設のルールを持って自分の家族としてケアを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設からの郵送物の中に、ご本人様の不足品の補充のお願いをお知らせしています。その不足品を持って来られた時には、ご家族様に普段の様子を伝えご家族様とコミュニケーションを図るようにし関係を繋いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙でやり取りをしています。コロナ感染症の流行りで外出は避けていました。	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。コロナ禍であるが、感染防止に留意しながら、柔軟な対応で関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が各利用者様の情報を共有し、ご利用者様同士の交流上手く出来るようにセッティングしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了の際はこれまでの撮った写真や作品をまとめて提供しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中でも耳を傾け、何を要望としているのか把握に努めている。	職員は家族の協力を得ながら、利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、応えるよう努めて、個々の誇りや個性を損なうことのないよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族が施設に来られた時に少しずつご利用者様の情報を収集してる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る所に着目し、各ご利用者様の生活のリズムを把握し、		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一ヶ月に一度カンファレンスを開き、他スタッフと意見を出しあい情報の共有をしている。モニタリングは居室担当に行ってもらっている。サービス担当者会議を開催する事を、ご家族様へ事前に連絡して参加を促している。	本人、家族の希望を取り入れ、介護記録を基に職員による日々の気付きをモニタリング会議の場で検討し、介護計画を作成している。状態の変化があれば、都度見直し、現状に則した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様それぞれのファイルに日常の様子やケア全てを記録している。いつ誰が見ても分かるようにしており、スタッフ間の情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援はコロナ感染症の状況をみて支援するが、出来るだけ控えていた。通院や送迎の個別しえんは必要時柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の要望に合った地域資源を調べ把握し、活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様の希望するかかりつけ医院に関しては、ご家族様の対応で受診を行って頂く事や、ご家族様の都合によりスタッフが代行出来る事を、契約時に説明し同意を得ている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、医療機関との協力体制があり、指示、助言を受けながら、職員は受診支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携契約の看護師がおり、ご利用者様の健康管理や状態変化に対応が出来る体制をつくっている。医療連携看護師と医療機関との連携も密にとれる体勢が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご利用者様の情報を医療機関に提供している。ご家族様と情報共有しながら回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院出来るようアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化となった時の方針を説明し同意を得ている。実際重度化した時にはご家族様へ再度説明し終末期のご意向を確認し、医療連携契約の看護師意見を取り入れながら検討を行いご家族様へ説明と報告をする。終末期を迎えたケースはなく、今後年間の教育計画に取り入れ、全スタッフのスキルアップを行って行く。	重度化や終末期に於ける対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所前にAEDを設置し緊急対応、事故発生について事故再発防止委員会を設置しマニュアルも作成している。予測される事故を検討し対策を話し合う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火訓練を定期的に行っている。H27.4.1法人内介護付有料老人ホーム美原・小規模多機能ハウスあい美原と災害協定を締結している。特別養護老人ホームあい亀田港と災害協定を締結し協力体制を築いている。	行政窓口、消防署の指導を得ながら、定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。防災マニュアルの見直しや生活用水、食飲料の備蓄など災害時での必需品を備えている。	自然災害を想定した避難訓練のさらなる内容充実を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格否定や虐待にならないよう、毎月虐待の検討を行い再確認をしている。	職員は、利用者の人格・個性の尊厳を介護の基本とし、いかなる時も人格否定や虐待のない介護に専念している。定期的に接遇やケア手法等の見直しの機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ニーズをお聴きし、出来るだけ要望通りに支援するようにしているが、要望が出来ない場合はご家族様のご協力をお願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の意見を尊重し、ご本人様ペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたら直ぐ交換し身だしなみに気を付けている。ヘアカットを定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフ見守りの中、料理の下準備や簡単な盛り付けを行っている。コップ拭き等も行って貰っている。	食事は食べやすさ、盛り付けに留意し、料理の過程やコップ拭き等、体調や体力に合わせ、お手伝いをお願いして、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分に関しては、日々チェック表に記録し、異常があれば医療機関と相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは個々の状態に合わせて、職員が支援している。また、異常があれば歯科医に相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄機能を医療機関と相談しながら、支援を行っている。	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は便秘になりやすいので、医療機関と連携し、個々に応じた対応に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設側の人員不足により、入浴の時間帯や曜日を個々に決めず入浴を行うのは現状難しいので、最低でも週に2回は入浴できるように努めている。	出来る限り、利用者の希望に沿えるようにしている。拒否のある場合も、利用者の気持ちに寄り添い、声掛けに工夫しながら、心地よく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて支援しており、安心して休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から内服薬などを説明して頂き、納得の上で服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内で出来る範囲ではご家族様に協力して頂き行っている。気分転換を図る為に出前にて楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症にて、外出は控えめにしていたが、季節感を感じて頂く為に行事としてドライブを組み込んで支援している。ご本人様の希望が施設内で可能な場合には対応していくが、難しい時はご家族様にご協力をして頂く。	通例では職員意見を取り入れ、季節のドライブや日帰りを実施したり、外出も買い物等、気楽に出かけられるように努めている。また散歩時は地域の方と気軽に会話を楽しむ等、日常的に行えるように外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の事から、被害的妄想や、物取られ妄想で不穏になってしまう恐れがあるので、施設内ではお小遣いは持っていないです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とのとの繋がりは大切にし、希望時は柔軟に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部に関しては、出来る限り過ごしやすい環境作りの為、空調管理や照明管理、壁などに季節ごとに絵などを飾っている。	陽当たりの良いリビングを中心に、和める雰囲気づくりに留意して、寛げる備品の配置や季節に合わせた飾り付けをしている。また、温・湿度の管理や換気等、健康に配慮した空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にお過ごし出来るように、フロア内にはソファや椅子などを設置し、ご自由に使って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様のゆかりのある家具や小物などを居室内に設置している。	居室は、自宅のように落ち着けるよう、家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や思い出の品、写真等で飾られ、安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のサービスに合わせ、自立した生活が送れるように、日々職員が見守っている。		